

(様式2)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	10	学校名	宇都宮市立清原中学校
----	---------------	------	----	-----	------------

令和3年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・学習内容定着度調査における標準スコアは49であり、昨年度の48に比べ、1ポイント上昇した。しかし、未だ市平均の数値50には届いていない。
- ・定着度調査において宇都宮市の平均を2ポイント以上下回る各教科の観点には以下のとおりである。国語「話す・聞く能力」「書く能力」、数学「数学的な見方や考え方」、理科「科学的な思考表現」「知識理解」。ただし、多くの教科において、昨年より大幅な数値の上昇がみられる。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・質問「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」や質問「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」に対する肯定回答の割合は、3学年ともに市の平均を下回っている。特に後者の「根拠をあげながら」については、例年本校の苦手意識として指摘されている課題である。
- ・質問「勉強が好きですか」、質問「新しく習ったことは何度もくり返して練習している。」や質問「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」への肯定回答の割合は、1年生では市の平均を大きく下回るのに学年が進むにつれて値が上昇し、3年生では平均を上回る。これは本校での学習経験がよい意味での自信につながっているものと評価できる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・授業におけるきちんとした挨拶は定着しているが、指名に対する返事はいまひとつである。基本的な授業態度に対する指導は、ポイントを絞ってさまざまな働きかけを講じる必要がある。
- ・新学習指導要領実施に向けて、授業における「ねらいの提示」「学びあい」「まとめ」「振り返り」の適切な位置づけを意識した取組は定着しつつある。今後も継続していく必要がある。
- ・家庭学習における自主学習ノートの活用は、おおむね習慣化されつつあるが、効率的な家庭学習の仕方や学習内容の選択、学習時間の確保については今後も指導が必要である。
- ・新学習指導要領での評価実施に向けて、職員のOJTや保護者への説明等を適切に行う必要がある。
- ・GIGAスクール構想の実現に向けて、配備されたICT機器(特に1人1台端末の環境)を有効に授業に活用すべく、研修や実践機会を講じる必要がある。
- ・「宇都宮学」を効果的に位置付けたカリキュラムマネジメントの在り方についてはさらに研究が必要である。

2 今年度の重点目標

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の育成
学習に1人1端末などを活用しながら自主的・主体的に取り組み、他者との対話を活かし、自らの学びを深めることができる生徒の育成

3 今年度の取組 (「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和3年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○)

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため、個に応じた指導の推進と、基本的な学習習慣の確立を図る
- 「学習の3つの決まり ・チャイム着席 ・きちんと起立 礼、指名されたらハイ 」の徹底を図る。(通年)
 - 「きよはら学習ガイド」を配付し、家庭学習の進め方を指導する。(4月)
 - ★「自主学習ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示、スタンダードダイアリーの活用等により、毎日の家庭学習を習慣付ける。(通年)
 - 単元や学期ごとに「まとめ・振り返り」の学習時間を確保し、身に付けるべき基礎・基本を確実に定着させる。(通年)
 - ・読書の習慣付けを図るため、「朝の10分間読書」を日課に位置づけ、また「図書だより」等の発行等で読書推進の啓蒙と魅力ある学校図書館づくりをはかる。(通年・11月)
- (2) 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
- ICTを活用し、個に応じた分かりやすい授業を展開する。(通年)
 - ※特に本年度は教室に常備された1人1台端末の活用を促進する。
 - 授業において必ず「今日のめあて」「振り返り」等の掲示を徹底し、生徒にとって本時の授業の内容が把握しやすいようにする。
 - ★数学科および英語科においては、T・Tや習熟度別学習の効果的な指導法を工夫する。(通年)
 - ・定期テスト終了後にアドバイスシートを作成し、テストの振り返りと基礎の定着に活用させる。
 - ★「学習内容定着度調査」や「学習と生活についてのアンケート」の効果的な活用を図るために、全職員で分析に当たる。(8月、2月)
- (3) 新学習指導要領への着実な実施とOJT
- ★全教員が「宇都宮モデル」を活用した授業実践に取り組む。(通年)
 - ・各教科・領域での要請訪問を計画的に実施する。(今年度は数学と道徳)
 - ・作新学院大学・宇都宮大学等の学生ボランティアによる「授業支援」の実施。
 - 授業づくりの重点研究目標を『新しい学習指導要領・指導と評価の一体化のための学習評価』として、学年ごとに時期を決めて、1人1授業公開を実施する。実施後、授業の改善点や指導方法などについて教科部会でアドバイスし合い、報告書にまとめる。(9月、10月、11月)
 - ★小中学校間の連携による学習指導の充実・相互乗り入れ授業や部会研修会などを通して教科の課題について意見交換し、指導方法について協議する。
 - 保護者会や学級懇談会において、新学習指導要領や新しい評価の仕方、保護者の行う学習環境作り等の情報を提供する。(4月、9月、3月)
 - ・「学校・学年・学級だより」、「学校HP」などを定期的かつ継続的に発行し、学校生活に関する情報提供を行う。(通年)
 - ・適応支援教室では、遅れがちな生徒の特性を理解し、配慮をしながら支援に当たるよう工夫する。(通年)
 - 不登校生徒に対しては、保護者に対し校内サポート体制を説明し、重荷にならないよう配慮しながらテストや課題を可能な限り提供し、家庭での学習の取組を評価に生かす。(通年)